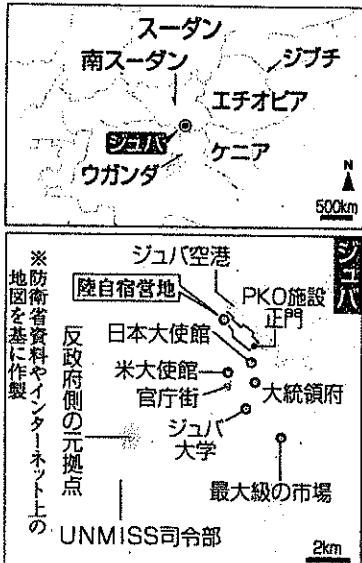


南スチダーンPKO

駆け付け警護運用開始



【ジュバ共同】南スチダーンの国連平和維持活動(PKO)に参加する陸上自衛隊部隊は10次隊から11次隊への指揮権移行に伴い、12日前0時(日本時間12日午前6時)から安全保障関連法に基づく新任務=★NEWSの言葉の「駆け付け警護」と「宿営地の共同防衛」を行なうことが可能となった。日本の外交、安保政策を変えた安保関連法がPKOの現場で運用段階に入った。

【5面に関連記事】

首都ジュバでは7月に政府軍と反政府勢力との間で大規模な戦闘が発生した。その後、紛争は小康状態にあるが、民族間の対立は深刻化。陸自部隊は混迷した情勢の中で新任務の適用を迎えた。

菅義偉官房長官は12日の記者会見で、派遣部隊は十分な教育と訓練を受けていること

11日、ジュバの宿営地では半年間の活動を終える陸自10次隊からの新任務を付与された。11次隊に交代する式典が行われた。11次隊の田中仁朗隊長は「全員が無事帰国し、家族や仲間に元気な姿を見せられるよう任務を完遂しよう」と呼び掛けた。

安倍政権は南スチダーンの治安が悪いことは認めながらも、紛争当事者間の停戦合意を守り、派遣部隊は十分な教育と訓練を受けていること

し、「駆け付け警護などの事態が発生しても、問題なく業務を遂行してくれる」と強調した。稻田朋美防衛相は記者団に、新任務を実施した場合は「できるだけ情報を、結果として報告するつもりだ」と述べた。

南スチダーンの陸自新任務

3月に施行された安全保障関連法により、南スチダーンの国連平和維持活動(PKO)に参加する陸上自衛隊部隊は「駆け付け警護」と「宿営地の共同防衛」という新しい任務が可能になった。駆け付け警護は離れた場所にいる国連要員らが襲撃された場合、陸自隊員が武器を持って救援に向かう任務。宿営地の共同防衛では、陸自は武装集団の襲撃に他国軍と共に對処する。(ジュバ共同)

NEWSの言葉

されていていると判断。11月に新任務の付与を閣議決定した。11次隊は施設部隊など約350人で構成。PKOに参加する他国部隊と指揮官レベルの相互訪問などを通じて連携を強化、新任務に対応する態勢づくりを急ぐ。宿営地の共同防衛が必要な事態になった場合、宿営地が隣り合つパングラム・シナ隊やルワンダ隊と協力して対処する公算が大きい。

南スチダーンでは最大民族ア